

大牟田市立田隈中学校

1 本校のE S Dの特徴

生徒の主体性を育成するために、カウンセリングマインドをもった生徒指導を心がけている。授業や行事の中では3機能（出番・役割・承認）を取り入れ、集団で高め合う力を身につけさせている。また、教科授業とE S Dとの相互関係を図り、外部の人とふれあうことで一層自尊感情を向上させ、やる気を持って活動するようにしている。

その結果、ほとんどの生徒は来校者への挨拶や、地域へ出かけていく様々な活動でも積極的なコミュニケーションをとることができている。また、それらで得られた情報を普段の学校生活や自分の将来の人生設計にも生かし、将来社会に貢献し、人々の役に立つような仕事をしたいと思えるような志を持った進路の実現につながっている。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

	第1学年	第2学年	第3学年	地域との連携
学年の目標	体験活動をもとにして、人との関わり合いを学び、考え方や生き方を共有する	地域や事業所に対する理解を深め、地元への愛着や誇りを持つことができる。	自ら課題を設定し、自分のこれからの生き方や3年間を通した学習から社会への参画について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の職業人 ・地元企業 ・福祉施設 ・幼稚園・保育園
将来を見つめる (進路学習)	○福祉学習（1学期） ・車いすバスケットボール体験を通して ※コロナ禍のため実施できず	○職場体験（1学期） ・市内の事業所での体験 ※コロナ禍のため実施できず	○職業調べ（1学期） ※コロナ禍のため実施できず ○進路学習（1・2学期） ・自分の将来について考える	
誰もが幸せな社会とは (人権・福祉学習)	○防災学習（3学期） ・防災新聞作成	○平和学習（2, 3学期） ・修学旅行大刀洗 ・事前学習	○保育学習（2学期） ・保育レポート	

3 特徴的な活動事例の紹介

○ 第1学年 防災学習



目標 支援が必要な方達が避難するために何が出来るのかについて考え、みんなで支え合い、助け合える町づくりへの参加意欲を高める。

内容 小さな子どもがいる人・外国人・けが人・ペットを飼っている人・障がいを持っている人・高齢者の6つの視点ごとに、災害時のマニュアルなどの資料を基に災害新聞を作成・発表を行う。

学んだこと 災害時に考えておかないとダメなこと、それに対し対策やできることを考えることができました。

○ 第2学年 平和学習



目標 大刀洗の歴史を学び、現在の日本の平和は、尊い犠牲の上に成り立っていることに気づく。そして、過去の悲劇を繰り返さないために、自分達にできることは何かについて考え、行動できるようになる。

内容 大刀洗飛行場の歴史や大刀洗平和記念館の展示についての紹介を聞き、学んだこと・感じたことをまとめる。

学んだこと 大刀洗町には、最初何があるんだろうと思って話を聞いてみたら、空襲があったと知りました。大刀洗町には大刀洗飛行場があり、特攻隊となる人が多かったとわかり、中には20歳にも満たずに亡くなっていった人もいました。さらに頓田の森、三軒屋の森の悲劇では小学生も犠牲になったと聞きました。今学校に行けて、友達と話せて、けんかできて、ご飯が食べられて、好きなことができることがどれだけ平和で尊いことなのかを改めて気づけたので毎日それを忘れないようにします。

○ 第3学年 保育学習



目標 乳幼児の頃の様子を親にインタビューする活動を通して命の不思議さや、命の尊さ、自分自身への愛情の深さを感じ、親への感謝の気持ちなど親子関係を見直す機会のある場を設定した。将来の目標実現に向かって、進路を選択している時期に自分自身を振り返るとともに、将来、自分が親になることについて肯定的に感じることができるよう促す。

内容 自己の幼少期を振り返り、保育レポートを作成

学んだこと 自分が小さかったときにこんなに大切に育ててもらっていたんだなとしみじみ感じました。1人1人が大切な存在であり、お互いを尊重していくことが大切だと思いました。

4 本年度の成果と課題

○ 成果

- ・防災学習を通して、支援が必要な方達が避難するために自分に何ができるのかについて考え、みんなで支え合い、助け合える町づくりへの参加意欲を高めることができた。
- ・平和学習を通して、現在の日本の平和は尊い犠牲の上に成り立っていることに気づき、過去の悲劇を繰り返さないために、自分達にできることは何かについて考え、行動していく意欲を高めることができた。
- ・保育学習を通して、自己の幼少期を振り返り、自分自身の愛着の感情を深め、将来、自分が親になることについて肯定的に感じることができた。
- ・進路学習では、進路実現に向けて自己分析を行い、模擬面接を通してさらに自己理解を深めることができた。

○ 課題

- ・コロナ禍のため実施することができなかった活動が多く、臨機応変に効果的な取組を考え、目標に沿った活動ができるように計画を立てる必要がある。